

Boats Under Construction for the Shinyetsu Power Company.

造船工場

圖は信越電力株式會社が材料運搬用として信濃川沿岸に大に造船せる當時の一部狀況である。

此水運用の船の總數は三千五百貫積一艘、二千五百貫積十一艘、千六百貫積八十九艘に及び、船頭三百六十名を常備した。

水力電氣の建設工事は、今日では何れも山間不便の地點に施工せらるゝ故、之れが工事用材料其他の物品の運搬と云ふ問題は、設計に當る當初に於て、大に考慮研究を要するものである。殊に工事期間を短く限定せられたる時に於て、最も其必要があるが、然も此の設計當時の豫定設備が、實際の工事に當つて意想外の障害の爲めに、大に不足を感じる事がある故充分なる餘裕を見込む必要がある。

信越電力會社の運搬設備は、最初より此邊に充分なる注意を拂つたものである。

本號には此の水方工事の水運設備其他を紹介するものである。

Over one hundred such boats have been built for the transportation of construction material.



船 積 の 景

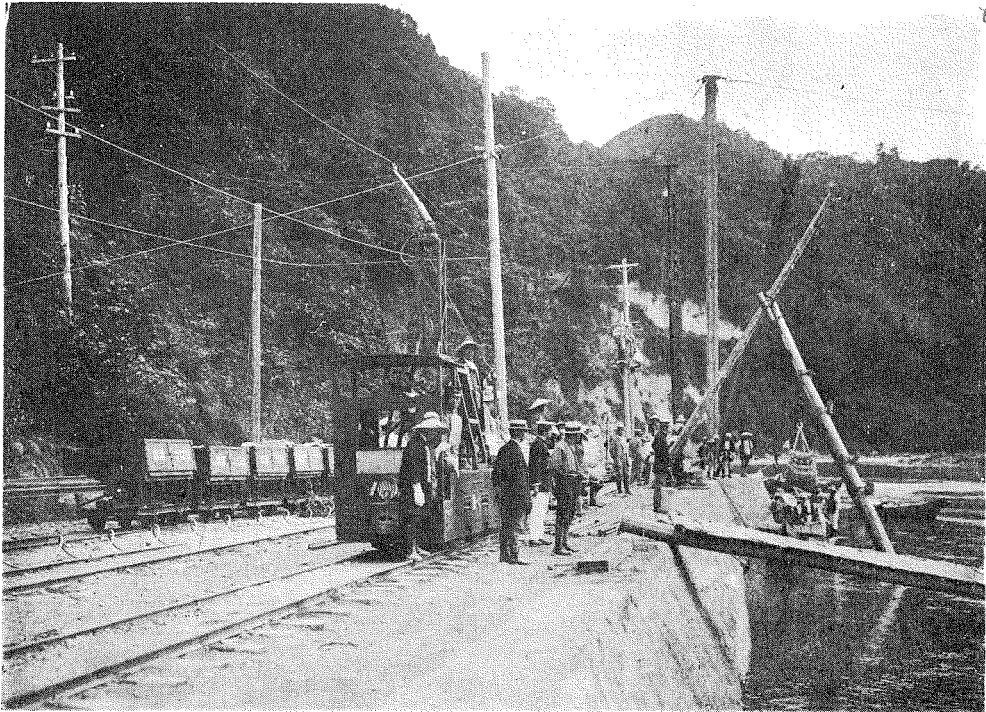
Transportation Under Difficulties.

Discharging material from boats for the Shinyetsu Power Company at Ieyama.

圖は信越電力會社材料運搬設備にて雪中を飯山河岸にて船積の景

東京方面よりの材料運搬は鐵道信越線により豊野に（飯山線に入り、飯山驛より馬車、自動車船積等によるも、冬季は積雪の爲め陸上の交通を殆んど斷たるるのである。

飯山河岸より蘆ヶ崎迄船航十里を下り、蘆ヶ崎より電車軌道にて發電所地點迄六里、發電所よりインクラインにて山上に登り取入口迄約十三哩間は全部電車軌道である。



Linking Rail and Water.

川と陸との連絡

圖は信越電力會社運搬設備の一部にて蘆ヶ崎荷揚場にて作業の景である。

荷揚場設備としては石積コンクリート護岸延長八十三間、荷揚場面積五百四十坪を有し、五噸デリック二臺を設置す。

圖に見ゆる電機關車は八噸のものである。之を四臺の外十噸のもの二十二臺を常備す。

ダンプカーは一、五立方碼のものにて圖に見ゆるは砂利運搬用のものである。

圖は船上よりセメント荷揚中。

Construction material for the Shinyetsu Power Company

is discharged at Ashigasaki by two 5 ton Electric Derricks and loaded into cars for the twenty mile haul to Intake.

four 8 ton and twenty two 10 ton Electric Locomotives being used for the run.